

大型新人今年も入学！聖地神宮で旋風起こすぞ！

中スポ

中大スポーツ
CHUDAI SPORTS

4月2日 日曜日
令和5年(2023)

第176号

SPORTS

らーめん
にんにくや

Instagram: ninnikuyaseki
twitter: ninnikuya_h

応援してるぞ~!!



反撃
高校野球日本代表に選ばれた選手らが入学した。中前祐也(法大)の活躍が注目を集めている。そして日本一を目指すチームに新戦力が加わり、旋風が吹く。学生野球の聖地・神宮で大暴れする。

【関連記事へ】



バットを握る伊藤権(左)と安田(カメラ)中馬進(右)は夏の大大会終了後の団体の決勝で戦った経験がある。試合後は両チームで記念撮影が行われ、2人で恋人つなぎ、伊藤権は「自分が勝手に驚いてました。懐かしいですね」と笑った。

高校校交侍

バレー本中大へ選手権V岡本沸かす 中スポ新人記者募集

大阪桐蔭
伊藤権

聖光学院
安田



場慣れしている
高校日本代表を経験した二人が、中大野球部を盛り上げる。伊藤権と安田は目の丸を背負い、世界に誇れる実績を持つ。「場慣れしている」というか浮ついた感じはあまりなくて、どっしりした感じはありますよ(清水監督) 国際大会を経験し、大舞台で躍動したからこそ指揮官の目を見張るものがある。

全国4強&V
バッティングはシンプルだけれどもも打力がある」と清水監督が語るのは伊藤権。高校時代は名門・大阪桐蔭高でリードオフマンとしてセンバツ優勝へと導いたが、「高校時代はいつもプレーで圧倒されていた」と語る。それこそ、それこそはず。チームメイトには横浜DeNAベイスターズから1位指名を受け、日本代表の正捕手だった松尾がいた。伊藤権は松尾を「持っているもの次いで進化した」と語るが、だからこそ「大学で4年間野球をしてプロに行く」という目標を持っていた。

「全ての分野のレベルを上げて総合的にレベルの高い選手になりたい」と伊藤権。そのために中前、石井功(文大)ら上級生がひしめく層の厚く、レベルの

センバツ1イニング2HR
◆伊藤権人プロフィール◆
いとう・かいと 平成16年9月30日生
岐阜県出身 大阪桐蔭高卒 178:ある山田健太(日本生命)

春夏連続甲子園出場
◆安田洋平プロフィール◆
やすだ・じゅんぺい 平成16年9月14日生
東京都出身 聖光学院高卒 177:ある山田健太(日本生命)

「一緒に日本一を」

2人に共通「泥臭く」
伊藤権と安田は大阪桐蔭高、聖光学院高と高校野球の名門校出身。伊藤権は明治神宮大会とセンバツで優勝、安田は夏の甲子園で4強と輝かしい功績を手に入れた。2人の中で共通している言葉として「泥臭く」が挙げられた。伊藤権は「高校野球と大学野球は違うと思います」

ほろ苦エピソードも…
伊藤権には高校日本代表での試合にほろ苦いエピソードがある。それはアメリカを相手に行ったワールドカップ第3戦。指揮を取っていた高校野球の名参謀・馬淵史郎監督(明徳義塾高監督)から「バットを短く持つ」との声が飛んだが、伊藤権は自分自身、バットを長く持ったまま勝負。結果は逆転勝ち。伊藤権は「自分の中では

反撃の狼煙を
伊藤権と安田の2人は、先輩方と一緒に日本一を目指す」と気合十分、活躍の場が甲子園から神宮に変わると、高校日本代表を経て手に入れた精神力、野球の技術、プロへの思いに加え、「日本一の欲が変わることはない。4年ぶりのリーグ優勝。さらには4年ぶりの日本一(のり)」を掲げている。(為谷楓太)

「郷土愛」が地元の高校に
対する応援の原動力になっていると思う。大学に入ってから東京出身の人と関わる機会が多くなったが、東京の人には「地元が好き」という感覚がないように見えるし、心なしか東京の高校野球に対する興味関心も栃木の人と比べて薄い気がする。それは「郷土愛」の差が生んでいるのではないかと感じる。▼東京という街は確かに便利だし、刺激的だ。栃木にいたときは1時間1本の電車を走らなければならない。それがなくなったのは、新しい生活スタイルがもたらした変化なのかもしれない。▼東京で生活する中で自分の選出した答えは東京よりも栃木の方が好きだということ。根が田舎者だから東京のせわしない感じが気疲れすることもある。当然のことながら東京よりも綺麗な空気を吸えるし、食べ物が違って栃木の方が美味しい。▼東京で過ごしているからか、「郷土愛」を自分で感じてほしい。改めて自分が「栃木が好き」ということを実感させられる。▼あと1年後には就職しているはずだ。栃木に居るのか、東京に居るのか、はたまた関西にも行くのか、現時点で全く検討もつかない。でも私は断言する。たとえどこがあるとしても、必ず好きで居続けると。(為谷楓太)

高い内野陣に果敢に挑み、自分の軸をしかりと持つ。この4年間を過ごす。「入替戦で熱くプレーしていた姿にひかれた」と語るのは安田。高校時代から熱くチームを盛り上げ、聖光学院高を初の全国4強へと導いた安田は「とにかく熱く野球をやることがモットーであり、一番の強み」と言う。

「目の丸を背負って、自分の力不足を痛感しました」。プロ野球の世界へ進んだ選手と一緒にプレーし、得られたものはさまざまな国の野球よりも自身の力の無さ。「上のレベルではまだまだ力が足りない」。この4年間、レベルの高い仲間と研鑽(けんさん)を積み、過去の自分を振り返り、最終選考まで進みながらも涙を飲む結果となり、「三度目の正直」で再び日本一を目指す。伊藤権と安田の2人は、先輩方と一緒に日本一を目指す」と気合十分、活躍の場が甲子園から神宮に変わると、高校日本代表を経て手に入れた精神力、野球の技術、プロへの思いに加え、「日本一の欲が変わることはない。4年ぶりのリーグ優勝。さらには4年ぶりの日本一(のり)」を掲げている。(為谷楓太)

ラーメン二郎
八王子野猿街道店2

アルバイト募集

新入生大歓迎
ラーメン食べ放題

部活会員募集
詳しくはDMで！
@Jiro_Yaenkaido2

ご卒業・ご入学
おめでとうございます

自門アスリートの夢を応援します!!

行動する知性。
中央大学



学生新聞の広告って
そんなに
効果
無いよね。

いえいえ、あります。
中大スポーツ

✉ chu-spo@hotmail.co.jp
☎ 042-674-2802
〈電話受付時間〉平日11~18時
見積もりご相談お任せください